

商品名 レメロン錠15mg 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	ミルタザピン錠
英名	Remeron	剤型	錠
薬価	61.90	規格	15mg 1錠
メーカー	オルガノン	毒劇区分	(劇)

レメロン錠15mgの効能・効果

うつ状態、うつ病

レメロン錠15mgの使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、MAO阻害剤投与中あるいは投与中止後2週間以内	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 自殺企図の既往、自殺念慮又はその既往、躁うつ病、脳器質的障害、統合失調症素因、衝動性が高い併存障害、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、狭心症、心筋梗塞、心疾患、低血圧、伝導障害、QT延長又はその既往、低カリウム血症、著明な徐脈、眼内圧亢進、緑内障、排尿困難、腎機能障害、肝機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

レメロン錠15mgの副作用等

1. 自殺念慮、自殺企図	記載場所	効能・効果
	頻度	頻度不明
2. 無顆粒球症、好中球減少症、感染症	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
3. セロトニン症候群、不安、焦燥、興奮、錯乱、発汗、下痢、発熱、高血圧、固縮、頻脈、ミオクロヌス、自律神経不安定、痙攣、AST上昇、ALT上昇、肝機能障害、黄疸、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、意識障害、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、多形紅斑、QT延長、心室頻拍	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
4. 体重増加、倦怠感、傾眠、浮動性めまい、頭痛、便秘、口渇、AST上昇、ALT上昇、 γ -GTP上昇	記載場所	その他の副作用

5. 疲労、高プロラクチン血症、乳汁漏出症、女性化乳房、激越、錯乱、運動過多、ミオクロヌス、失神、幻覚、精神運動不穏、運動過剰症、嗜眠、口の錯感覚、せん妄、攻撃性、健忘、口腔浮腫、唾液分泌亢進、起立性低血圧、低血圧、再生不良性貧血、顆粒球減少、血小板減少症、皮膚水疱、尿閉、排尿困難、持続勃起症、CK上昇	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
6. 異常感、末梢性浮腫、胸痛、易刺激性、浮腫、末梢冷感、体重減少、体位性めまい、感覚鈍麻、振戦、不眠症、構語障害、注意力障害、アカシジア、痙攣、悪夢、鎮静、錯感覚、下肢静止不能症候群、異常な夢、不安、軽躁、躁病、上腹部痛、下痢、悪心、胃不快感、嘔吐、腹部膨満、腹痛、口内乾燥、おくび、口の感覚鈍麻、動悸、血圧上昇、心拍数増加、しゃっくり、ヘモグロビン減少、白血球減少、白血球増多、好酸球増多、好中球増多、リンパ球減少、紅斑、多汗症、皮膚そう痒症、発疹、視調節障害、眼瞼浮腫、視覚障害、Al-P上昇、LDH上昇、ビリルビン上昇、頻尿、尿糖陽性、尿蛋白陽性、不正子宮出血、関節痛、筋肉痛、筋力低下、背部痛、四肢不快感、過食、食欲亢進、コレステロール上昇、食欲不振	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
7. 不安、焦燥、興奮、パニック発作、不眠、易刺激性、敵意、攻撃性、衝動性、アカシジア、精神運動不穏、軽躁、躁病、自殺念慮、自殺企図、他害行為、不安増悪、焦燥増悪、興奮増悪、パニック発作増悪、不眠増悪、易刺激性増悪、敵意増悪、攻撃性増悪、衝動性増悪、アカシジア増悪、精神運動不穏増悪、軽躁増悪、躁病増悪、浮動性めまい、錯覚感、頭痛、悪心、躁転、QT延長、心室頻拍、torsade de pointes、着床後死亡率上昇、出生仔体重増加抑制、出生仔死亡率増加、頻脈、高血圧、低血圧、見当識障害、鎮静作用、中枢神経系抑制、骨折、深睡眠	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

レメロン錠15mgの相互作用

1. 薬剤名等：MAO阻害剤投与中あるいは投与中止後2週間以内	発現事象	-	投与条件	-
	理由・原因	-	指示	禁止
2. 薬剤名等：MAO阻害剤	発現事象	セロトニン症候群	投与条件	MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内
	理由・原因	脳内ノルアドレナリン、セロトニンの神経伝達が高まる	指示	禁止
3. 薬剤名等：アルコール	発現事象	鎮静作用が増強	投与条件	-
	理由・原因	相加的・相乗的な鎮静作用	指示	希望禁止
4. 薬剤名等：飲酒	発現事象	鎮静作用が増強	投与条件	-
	理由・原因	相加的・相乗的な鎮静作用	指示	希望禁止

5. 薬剤名等：CYP3A4阻害剤

発現事象	本剤の作用を増強	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4の阻害作用により、本剤の血漿中濃度が増大	指示	注意

6. 薬剤名等：CYP3A4阻害剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	これらの薬剤の投与中止後
理由・原因	CYP3A4の阻害作用により、本剤の血漿中濃度が増大	指示	注意

7. 薬剤名等：CYP3A4誘導剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	CYP3A4の誘導作用により、本剤の血漿中濃度が減少	指示	注意

8. 薬剤名等：CYP3A4誘導剤

発現事象	本剤の作用が増強	投与条件	これら薬剤の併用を中止
理由・原因	CYP3A4の誘導作用により、本剤の血漿中濃度が減少	指示	注意

9. 薬剤名等：シメチジン

発現事象	本剤の作用を増強	投与条件	-
理由・原因	複数のCYP分子種（CYP1A2、CYP2D6及びCYP3A4等）の阻害作用により本剤の血漿中濃度が増大	指示	注意

10. 薬剤名等：鎮静剤

発現事象	鎮静作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相加的な鎮静作用	指示	注意

11. 薬剤名等：セロトニン作用薬

発現事象	セロトニン症候群	投与条件	-
理由・原因	セロトニン作用が増強	指示	注意

12. 薬剤名等：セイヨウオトギリソウ含有食品

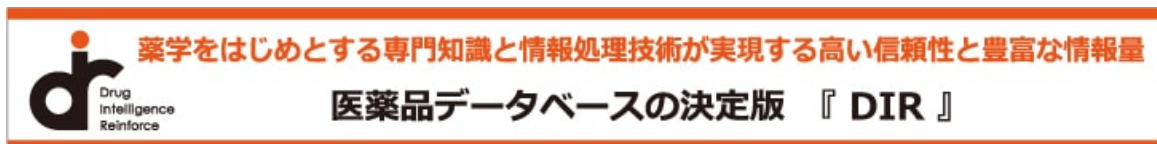
発現事象	セロトニン症候群	投与条件	-
理由・原因	セロトニン作用が増強	指示	注意

13. 薬剤名等：ワルファリンカリウム

発現事象	プロトロンビン時間が増加	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

14. 薬剤名等：QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象	QT延長、心室頻拍＜torsade de pointesを含む＞	投与条件	-
理由・原因	QT延長作用が相加的に増加	指示	注意



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.